

SEEDS



知床財団

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

No.244
2020 /

冬号

自然特集
つながる、生きた軌跡
チャシコツ岬上遺跡

活動レポート

点から面へ

～ホロベツ地区の取り組み～

上空から撮影したチャシコツ岬（通称カメ岩）と知床連山
※林野庁および北海道の許可を得てドローン撮影をおこなっています。

知床・人・インタビュー第40回

鈴木日出男さん

点から面へ

― 知床自然センターリニューアルから
始まったホロベツRebornプロジェクト ―

文―秋葉圭太 公園事業係長

い ま私たちは、斜里町とともにホロベツ園地全体の構想づくりに改めて着手しています。その足掛かりとして始まったのが、2015年から始まった知床知床自然センターのリニューアルプロジェクトです。そもそも知床自然センターの役割は何か。根本に立ち返りながらプロジェクトはスタートしました。

来訪者は施設を目的に知床を訪れるわけではありません。訪れる人は、知床の自然やリクリエーションを通じた体験の場を求めて知床にやってきます。国立公園の入りに位置する知床自然センターでは、そのような人々をまず受け止め、知床らしい体験をするための情報提供の場として機能する。それが知床自然センターの役割です。

施設のリニューアルについては、SEEDS2016年夏号でご報告したとおりですが、今号ではその後の取り組みをたどりながら、私たちの考えるホロベツ地区と知床国立公園のこれからをご紹介します。

制作は今津秀邦監督に託され、このコンセプトを具現化する2本の作品が2020年4月20日の公開に向けて2年間かけて撮影され、今まさに最終の編集段階へと進んでいます。

新たな交通システムの構築に向けて

知床自然センターは、知床五湖やカムイワッカなど奥知床方面と、羅臼へ向かう知床峠方面の分岐の三叉路に位置しています。国立公園の核心部の手前で情報を得たり休憩したりするためには、この位置が重要なのです。

昨年、全国放送でも流れましたが、知床



ヒグマ撮影のために発生した車渋滞
通称、クマ渋滞

「メガスクリーンKINETOKO」の誕生と 新映像制作のスタート

2016年の施設全面リニューアル、2017年のホール内シート改修やバリアフリー化に続いて手を付けたのは、開館以来更新されていなかった上映作品「四季・知床」の後継作品の制作です。この壮大なプロジェクトが2018年春、スタートしました。レギュラー上映する作品は新たな知床自然センターの象徴であり、施設に吹き込む魂のようなものでなければなりません。「映像ホールの再生なくして、知床自然センターの再生なし！」これが私のなかのスローガンとなりました。

その基本コンセプトは2つです。

- 一、知床の自然の素顔について、容易に触れることが難しい真の姿にまで踏み込んで分かち合う
- 二、いままで取り上げられることの少なかった、人と自然との関わりを紹介し、『新たな知床』を発信する



「MEGAスクリーンKINETOKO」として生まれ変わった映像ホールのエントランス

五湖やカムイワッカ方面に向かう道路上で「見えてしまうヒグマ」による交通渋滞などの問題が未だに解消されていません。知床国立公園全体の利用形態の将来を考えると、マイカー規制や知床国立公園の



シャトルバス基点となるセンター駐車場は夏の繁忙期になると臨時駐車場も満車となる



8月の観光シーズンだけ運行されるカムイワッカ行きシャトルバス。将来的にはセンターを拠点に国立公園の新たな交通システムを考えたい

奥へと向かうシャトルバス運行などの交通拠点としての機能が今、ホロベツ地区に求められる重要な役割といえます。

そこで今年度は、駐車場を中心とした外構工事に着手しています。第一段階としては、駐車台数の拡張、バスレーンの新設が主な内容です。駐車場の拡張は難題で、夏のピーク時だけを考えた過剰整備を避け、かつ将来の展望、知床自然センターを拠点とした乗り換えの促進や新しい交通サービスを提供することを想定しなければなりません。施設の稼働率と必要な収容力を秤にかけ、現状より約40%増の約200台を適正な駐車容量としました。駐車場内の配置や施設へのアプローチも抜本的に見直し、車を降りた利用者が安全かつ直線的に施設に入ったり、快適にシャトルバスに乗り換えたりすることができるとを想定した改修を目指しています。

昭和	1983	1988	平成	2005	2010	2014	2016	2017	2018	2019	令和	2020
	ホロベツ基本構想 (通称トピア計画)	9月 知床自然センター開館 大型映像 「ダイナビジョン」上映開始	10月 ダイナビジョン デジタル化 (フィルム上映の終了)	7月 世界自然遺産登録	10月 通称、ホロベツ実験 期間限定でホロベツ地区に新トレイルを開設	4月 施設全面リニューアル (リニューアル工事第二期)	2月 映像ホール内シート改修とバリアフリー化 (リニューアル工事第二期) シートを新し、映画館風の内装へ	2月 映像ホール内シート改修とバリアフリー化 (リニューアル工事第二期)	9月 知床自然センター 開館30周年	10月 第1回知床アウトドア フィルムフェス開催	5月 新規テナントOPEN ◆THE NORTH FACE /HELLY HANSEN 知床店 ◆BARSTADT COFFEE	10月 第2回知床アウトドア フィルムフェス開催
	建設中の知床自然センター	知床自然センター開館	最後のフィルム上映	世界自然遺産登録	通称、ホロベツ実験	施設全面リニューアル	映像ホール内シート改修とバリアフリー化	映像ホール内シート改修とバリアフリー化	知床自然センター開館30周年	第1回知床アウトドアフィルムフェス開催	新規テナント	第2回知床アウトドアフィルムフェス開催



活動紹介コラム

第2回

知床アウトドアフィルムフェス開催

2018 年、ホロボツ Reborn プロジェクトを実践する一つのカタチとして初開催した「知床アウトドアフィルムフェス (SOFF)」。昨年の第 2 回目では新たなプログラムも加わり、たくさんの方々にご来場いただきました。

初の音楽 LIVE 開催



台湾出身のシンガーソングライター Eri Liao (エリリャオ) さんによる弾き語りライブを開催。Eri さんの心を打つパワフルな歌声が KINETOKO を満たしました。



第 1 回 SOFF に出展した小池アミイゴさんの作品「Deep Fall」とのコラボレーション

しれとこ 100 平方メートル運動

「しれとこ森の集い」の共同開催



毎年秋に開催される森の集い (植樹祭)※を、今回は SOFF のプログラムの一環として実施しました。この集いが、運動の普及や参加者獲得の PR の場として更なる発展を遂げるよう、一般の方の参加を可能にした初めての試みです。



前回に引き続き「バンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバル」も開催し好評を得ました。さらに 2020 年 4 月 20 日公開の KINETOKO オリジナルフィルム「知床の冒険」『THE LIMIT』のプロモーションイベントも行い大好評でした。

私たちの幌別園地に対する想いが続く限り、このフィルムフェスは脈々と続いていきます。そしてこれは参加者の皆様の力をもらいながら年々成長していくイベントです。今年 10 月、皆様のお越しをホロボツで心よりお待ちしております！

プロスキーヤー フォトグラファー

児玉 毅 × 佐藤 圭 フィルム&トーク！



スキーを背負って世界を旅するプロジェクト「Ride the Earth-地球を滑る旅」に取り組む児玉毅さんと佐藤圭さんが、臨場感満載の写真をバックに、世界各国のスキー場の様子や旅の失敗談などを楽しくお話してくださりました。

FOODブースもパワーアップ！

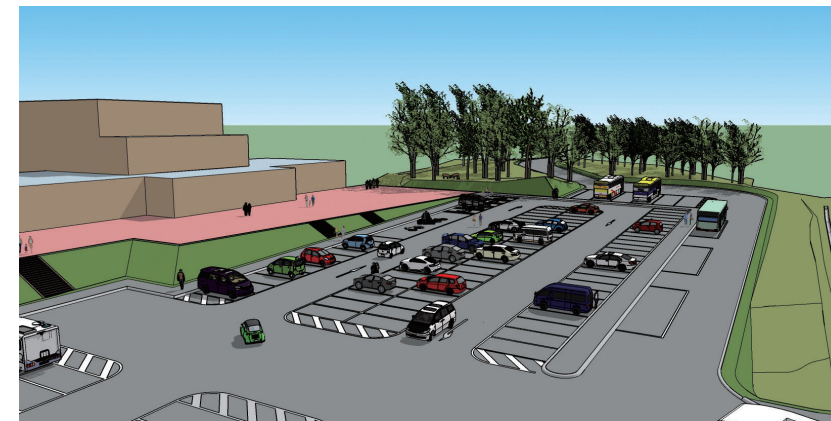


今回は羅臼町から地元高校生も参戦し、彼らがレシピを考案した「大漁焼き」をその場で調理・販売してくれました。

ワークショップも充実！



THE NORTHFACE がワークショップを展開。スピーカーを作る際に出る廃材を再利用したコースターづくりは、子供にも大人にも大人気でした。また、今回は知床自然教室 40 周年の節目。自然教室の OB/OG に、「マイ箸づくり」をワークショップとして実施していただきました。



知床自然センターの新たな駐車場イメージ図
収容台数も大幅に増え、2020年春に完成予定

トレイルの新たな魅力発掘

知床自然センターを起点としたフレベの滝遊歩道は、1 年を通じて利用者も多く、知床の自然環境の多様性を感じられる重要な場所です。しかし、ヒグマ出没による閉鎖も多く、展望台など施設の老朽化も顕著です。そこで、展望台のリニューアルやヒグマ出没時にも対応できるよう新たな遊歩道の新設などの検討が始まっています。また、最新の公園利用システムのインプットを目的とした海外研修や、今は立ち入り禁止となっているウトロ灯台などを海上保安庁との協力の下に見学イベントを実施して活用するなど、新たなホロボツ地区の魅力の発掘が始まっています。



普段は立ち入ることができないフレベのウトロ灯台に登るイベント参加者 (2017年2月5日)

時代とともに歩み、そして令和へ

知床自然センターのリニューアルが契機となり、施設の改修はほぼ完了し、ソフトやサービスの更新も目前です。駐車場を拡張し、現在はフィールドの拡大と充実に着手し始めています。これらの取り組みは斜里町役場と二人三脚で進め、地域のみなさんの理解と応援のもとに進めてきたものです。

元号は不便で不要という考え方もありますが、時を区切り、何らかの意味を見出そうとするとき、とてもしっくりする場合があります。ホロボツ地区の歩みも令和のはじまりとともに新たな幕開けを迎えているように感じます。このプロジェクトも、施設という点からはじまり、ホロボツ地区、そして知床国立公園へと波紋が同心円を描くように広がってゆきたいと思っています。



カナダのグレイシャー・スカイウォーク

地上280mにあるガラス床の展望台
フレベ展望台の改修案の1参考例として

と知床らしい自然体験を実現するための独自構想として「知床国立公園幌別地区基本構想(通称トピア計画)」を策定します。この理想を掲げて知床自然センターを中心としたホロボツ地区の歩みが始まりました。

この歩みは「平成」と軌を同じくしていることに気付きます。平成の時代をまるごと過ごし、構想のかんりの部分が実現し、理想を大きく上回った部分もあります。しかし「ホロボツ以奥のマイカー規制」「多様な利用を受け止める施設と歩道」などいまだ実現していない部分もあります。奇しくも平成の終わりに始まったリニューアルの取り組みは「できなかったこと」の再提案です。ビジョンを点検し、夢を引き継ぎ、次の 30 年に向けて再構築する試みです。

